

平成30年度(2018年度)

管理事業名	文化会館事業			総合計画の体系	第4章 個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 第4節 多彩な文化が交流するまちづくり
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費 (目) 31 文化会館費
部局名	都市魅力部	予算執行所属	文化スポーツ推進室		
予算大事業名	文化会館管理事業				
事業の目的と概要		上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名			
<p>市民の文化の向上を図ること目的として設置された文化会館の管理運営(指定管理者による管理運営)及び施設改修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大・中・小ホール、展示室、レセプションホール、練習室、集會室、会議室などの施設の使用許可及び使用料の徴収 ・施設及び付属設備等の維持管理 ・催しを円滑に進行し、かつ十分な演出効果が得られるように舞台関係所設備の操作・設備点検などの舞台管理業務 ・地域の文化振興を目的とした自主及び受託による文化事業の実施 ほか <p>平成30年度は大阪府北部地震により損傷を受け、6月18日以降大ホールを使用中止にしました。地震被害調査等を行い、また調査結果を踏まえて施設改修の設計を行いました。</p>					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
開館日数	日	331	-	331	年度内開館日数 (当年度の日数-(保守点検日+臨時休館日+年末年始休館日))
利用率	%	62.3	-	48.1	年間のホール及び諸室の午前・午後・夜間の区分毎(以下「コマ」と表記)にみた利用率(年間利用コマ数合計/年間提供コマ数合計)
入場者数	人	439,555	-	268,065	ホール及び諸室の入場者数
成果の説明	平成29年度は、改修のため全館休館しました。平成30年度も大阪府北部地震発災後大ホールを使用中止としたため、部分的な施設利用となり、来館者数は平成28年度の60.9%(△171,490)に減少しました。利用率も平成28年度に比べると△14.2%減少。特に大ホールとともに利用されることの多い第1、第2練習室やリハーサル室で利用率の減少が見られました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	差額
		A	B	B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	45,754	34,414	32,575	△1,839
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	7,288	△7	5,840	5,847
経常収入 小計(a)	53,041	34,407	38,415	4,007
給与関係費	11,488	11,440	21,345	9,905
物件費	356,948	329,760	377,136	47,377
維持補修費	9,929	116,394	4,190	△112,203
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	239	14	14,747	14,733
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	141,736	142,444	211,241	68,797
徴収不能引当金繰入額	38	-	△7	△7
賞与引当金繰入額	989	1,003	1,502	500
退職手当引当金繰入額	△5,633	746	9,959	9,213
支払利息	-	-	2,742	2,742
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	515,732	601,800	642,855	41,055
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△462,691	△567,392	△604,440	△37,048
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	5,320	-	-	-
特別収入 小計(d)	5,320	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	5,320	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△457,371	△567,392	△604,440	△37,048
一般財源充当額	406,696	415,247	408,500	△6,746
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△50,675	△152,146	△195,940	△43,794

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入	文化会館使用料 32,575千円 主に令和元年7月1日以降は施設改修に伴い全館休館となるため減額となりました。
物件費	吹田市文化会館指定管理に係る施設管理委託料 364,545千円、大規模改修工事設計見直し委託料 9,709千円、消耗品費 1,399千円
維持補修費	舞台照明修繕 2,689千円 大階段防滑塗膜修繕 1,501千円
負担金・補助金・交付金等	文化会館使用料過年度還付金 14,747千円 主に平成30年6月18日以降大ホール使用中により前年度使用申込分を還付したためです。

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	差額
		A	B	B-A
行政サービス活動収入	52,753	34,544	38,535	3,991
行政サービス活動支出	381,173	459,673	423,138	△36,535
行政サービス活動収支差額	△328,420	△425,129	△384,603	40,526
投資活動収入	-	130,000	-	△130,000
投資活動支出	78,276	534,717	-	△534,717
投資活動収支差額	△78,276	△404,717	-	404,717
財務活動収入	-	414,600	-	△414,600
財務活動支出	-	-	23,897	23,897
財務活動収支差額	-	414,600	△23,897	△438,497
収支差額 合計	△406,696	△415,247	△408,500	6,746
一般財源充当額	406,696	415,247	408,500	△6,746
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	財務活動支出:リース債務返済
----------	----------------

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
施設利用者1人あたりのコスト	平成28年度	439,555人	1,173円	平成29年度は1年間文化会館を休館し、改修を行いました。平成28年度と比較して大ホール使用中の影響により利用者が減少し、施設利用者一人あたりのコストが大幅に増加しています。
	平成29年度	-人	-円	
	平成30年度	268,065人	2,398円	
開館1日当たりのコスト	平成28年度	331日	1,558,103円	
	平成29年度	-日	-円	
	平成30年度	331日	1,942,160円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	1,003	48,197	47,194
未収金	227	107	△120	地方債	-	22,585	22,585
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	1,003	1,502	500
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	△114	△107	7	リース債務	-	24,110	24,110
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
事業用資産	4,354,450	4,266,078	△88,372	固定負債	425,451	484,474	59,023
有形固定資産	4,354,450	4,266,078	△88,372	地方債	414,600	392,015	△22,585
土地	2,597,020	2,597,020	-	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	1,757,430	1,571,752	△185,678	退職手当引当金	10,851	18,834	7,983
リース資産	-	97,306	97,306	リース債務	-	73,625	73,625
建設仮勘定	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	負債の部合計	426,453	532,671	106,217
固定資産	-	-	-	純資産	4,158,151	3,962,211	△195,940
有形固定資産	-	-	-	重要物品	-	-	-
土地	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	投資その他の資産	200,000	200,000	-
建設仮勘定	-	-	-	出資金	200,000	200,000	-
重要物品	30,041	28,804	△1,237	長期貸付金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	基金	-	-	-
投資その他の資産	200,000	200,000	-	徴収不能引当金	-	-	-
出資金	200,000	200,000	-	その他債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	資産の部合計	4,584,604	4,494,882	△89,723
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
負債及び純資産の部合計	4,584,604	4,494,882	△89,723				

Ⅲ 財務構造分析

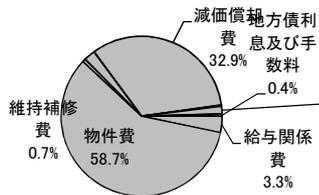
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
事業従事人数	2.83 人	人	日	人	32,805
給与関係費等	32,805 千円	千円	千円	千円	32,805
内、時間外勤務手当	175 千円				

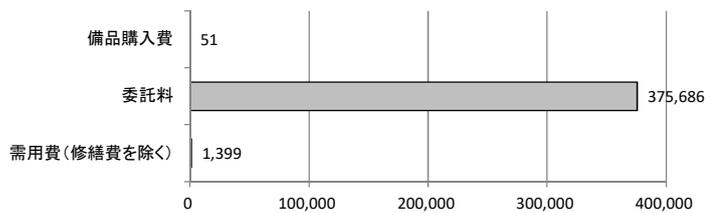
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
未収金	文化会館使用料の未収金2件のうち1件の納付があり、未収金は107千円に減少
建物・工作物	建物減価償却(145,559千円)、工作物減価償却(40,119千円)による減
重要物品	重要物品減価償却(1,236千円)による減
リース資産	舞台音響リース、舞台照明リース

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市文化会館
取得年月日	昭和60年3月1日
建物・工作物の取得価額	6,419,822 千円
建物・工作物の減価償却累計額	4,848,070 千円
利用料金収入	32,575 千円

▽分析指標

分析指標	年度			差 B-A
	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	
施設維持補修費比率	0.2	1.8	0.1	△ 1.7
施設老朽化比率	77.8	72.6	75.5	2.9
受益者負担比率	8.9	5.7	5.1	△ 0.6
徴収不能引当率	34.8	50.0	100.0	50.0
一般財源充当比率	88.5	41.8	91.4	49.6
経常費用対公共資産比率	8.9	9.4	10.0	0.6

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【行政コスト計算書】

大阪府北部地震で大ホールを使用中止としたため、前年度使用申込分の還付があり、負担金・補助金・交付金等が増加しています。

【分析指標】

- 平成29年度に改修したものの、施設老朽化比率は75.5%と高い状況が続いています。
- 債権発生から2年経過した未収金があり、徴収不能引当率が100%になっています。
- 使用料収入が低下し、一般財源充当比率は91.4%と高くなっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

令和元年7月から令和2年8月まで全館を休館して、地震への耐性の強化と今後の安定的な運営を目的とした改修を行います。改修後、市民文化の拠点施設としてこれまでと同様の利用率で利用いただけるようサービスの充実に努めます。

一部後納を認めているため、未収金が発生する場合がありますが、未収期間が長期化しないよう適切に債権管理を行います。